WASON HQ

女學雜誌

第二百八十號 明治二十四年八月廿九日發兌

新作小説 淮北の枳 花圃

春と秋 何れか樂しき 六女學生の答

新訂驗談 保姆の乳 石翁

下六番町六番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 2[illegible] August, 29th. 1891. 第二百八十[illegible]號目次

EDITORIAL: [illegible]

CHILDREN'S COLUMN: [illegible]

MISCELLANEOUS: [illegible]

THOUGHTS AND FANCIES: [illegible]

HOUSEHOLD: [illegible]

NOVEL: [illegible]

NOTES AND NEWS.

CONFESSIONS OF WOMEN.

● [illegible]

● [illegible]小公子 [illegible]

● [illegible]

● [illegible]

● [illegible]

● [illegible]

● [illegible]

● [illegible]

通信女學第三期生新募集廣告

學問普及の今日、女學の前途[illegible]

[illegible]

東京麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

女學雜誌 第二百八十號 明治二十四年八月廿九日發兌

社説

女學普及の經綸

今の女學伸張に切要なる方策二個あり。普通一と通りの教育を施こして一般婦女子の品性を開發し以て妻母の資格を高くするを、其一とす。更に高等なる教育を、比較上少數の有爲婦人に授け、先進女學生の地步を固く勇しくせしめて、以て大ひに女子教育の源を拓くを、又の一となす。第一の策により、賢母良妻多く出て、戸々ホームの景情一變し、良人は之が爲に大丈夫となるとを得、子女は之が爲に賢兒となるとを得、邦家全般の益を併て擴張するとなるべし。第二の策により、卒先興起して同性を誘導啓發する所の女秀才彬々として現れ、女學校の良教師各地に分任羅居して、女學一齊に勃興すべし、万代長久の泉脈々として之より流れ出るとなるべし。扨て此の二策を實際に執行はんと、左までの難事にあらず。無論政府の手を假るに及ばず、唯だ民間人の力を用ひて能く成就するとを得べし。而して、資金を要するとも、左程多しとせず、たゞ同志者が相應じ相助くるの精神の當に極めて旺盛なるべきとを主とす。

其道他なし、各地方の重なる市町に、高等小學以上三年の普通女學校を設置し、妻母たるに必要適切ある學科を、專ら邦語邦文にて教授するにあり。而して、教師は三人乃至四人にて事足るべければ、校の入費も左程多からざるべく、生徒も九十人に達すれば、給支十分なるべし。不幸にして之に達せざる間だは、有志者が多少の補助を以て當分維持し、追て學生の增加するを待つべし。從來各地方に、政府が設けたる高等女學校、並に宣教師派の英和女學校など稱へたるもの無きにしもあらざりしが、前なるは貴族的に流れて當の實際に適せざる憾みあり、後なるは田舍に不必要ある英學を多くして學ぶものに切要の科目を授けざるの欠點あり、之を以て先づ入校するもの多からず、業を卒へたるものゝ亦た實効うすくして、久しく校運を隆んにするに至らざりき。左れど、若し此等の個所欠點を除きて、恰も好く今日中等社會平民的實教育を施すとを得るもの出來せりとせば、校の運決して從

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

前の比ひにはあらざるべしと確信す。今日に於て欠く所のものは、各地方に於ける有志者が率先此校新設の動機となるの精神是れ也。

斯て、東京に一の高等女學校を置き、普通女學校卒業后更に三年一層高等の學を修むるを得るの途を備ふべし、此は成べく、大阪に一つ、仙臺邊に一つとして、全國に三個ほど設けたきものなれど、先づ之を東京に於てするは、高等教師を廉價に雇ひ得ると、他の諸方を凌ぎ、學校の維持を爲し得るとの容易なるとの便あるによる。

右二種の學校は、相關し連係して共に助通するを利とす。而して其助通方を行ふ策の一つとして、各地方普通女學校の學生中、天資秀抜、前途多望なるものを撰び、中央なる高等女學校に入學せしむるの特例を案じ、又、高等女學校卒業生は、出で、普通女學校に教師たるの約を結び置くべし。

教育の効果如何んは、教師其人を得ると得ざるとにあり。凡そ學校の實情は、學科表、年月、器械、用書などを以て判定する事難し、如何に不完全なる器械を用ひ、如何に短き年間の教授を爲すとするも、若し教師に其人を得ば、學生の發達驚ろくべきものあらんとす。而して、學校の隆盛は斯る良教師を得たるに根づくこと勿論なるが、其教師たるもの、其學校を愛し、幾久しく茲に安んじて業を執り、正に餘念傍顧することなきに至りて、初めて其學校大ひに發達すべし。

此故に、前一段に記したる主意により、各地方普通女學校の教師を求むるに、下の如き一方を設るを可とす、則はち、普通女學校卒業生の中ち、尤熱心、尤適當なる一女生に、其校より學資を給し、三年、中央に出京して高等女學校に修學せしめ、其卒業后、歸りて元の地方に教授すること是也。又、普通女校學より未だ此の如き候補者を出し能はざるの日に於ては、中央高等女學校の生徒中に付き、預じめ人を撰みて之に資を給し、他日の約を固むることも可也。例せば、明治女學校高等科生の中には、かゝる需めに應ぜんとするもの無きにあらず、惟ふに、此事たる容易く行はるゝことを得べき歟。

自主の精神は、精神なき人に取りては、漠然たる空想とも思はるべけん。又、今の自治政代に達し乍ら、依然として教育の事を政府の力にのみ委頼せんとする卑屈者には、極めて至難なる事のやうに思はるべし。左れど、獨立の思想と精神

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とに富み、女學の前途を望みて熱心燃ゆるが如き人に取りては、事の難きを覺へざるのみか、其日の來らんは甚だ遠からざることを信じ得べき也。今に於て欠く所ろのものは、同志者の少なきにあり、而して同志者の少なきは、元づ想つものゝ稀なるに由ることを思ふときは、最便、隗に及ばざるものと雖ども、先づ自ら從わんことを欲せずんばあらず。

扨て、普通女學三年の科目を、專ぱら、邦語邦文にて教授せんと欲するには、邦文にて綴りたる適當の女學教科書なかる可らず。此一事は夙に吾人が稱道する所ろにして、大學熱再來の日に先だち、早く其書の成らんことを熱望したること一日にあらず、其人出んことを切に待つと雖ども悲しひ哉未だ之を聞かず。故に、吾社微力を忘れて此欠點に補はんことを希かひ、近頃ろ、家政教科書(吉田伸子編)、裁縫教科書(渡邊辰五郎氏編)、女子修身教科書(櫻木菁治編)などの編著に着手し、先づ叫びて、大人の出づるを促がさんことを欲す。

湖畔樹下に祈りしつゝ、世事を忘れて、沈思靜念する時、端なく平素の懷ひに迫りて、心中熱することを覺へ、思はず之を記す。多少淺識の經綸なきにしもあらず、請ふ異日之を細論せん。

○ライフ

人の說なるものは、天地の理わり人の心に映り露はれて言語文章となりたるものなり。人は之を創思せりと云へれど、實は、此時天の理初めて人に映じたるに過ぎず。

人の一生も亦た如此し、榮枯盛衰は、天の指の跡にして、生死留離は、理法の廻り亦た回りたる道線に異ならず。

必らずしも希臘の哲學者に倣ひて、人は世界の寄生物なり他の根を通して吸ひたる液によりて養われ粉土合して肉となり包圍聚まりて動作を生ずとは思はず。正に人の自由意思を確信す。

然れども、人の說となり、人の一生となり、即はち人の活きたる言行となりたるものには、人以上の大ひなる生命の之に反映せしものあることを想ひ、心を潛めて細察せんとするの念止む時なし。

人の傳紀は活ける行ひなり、國の歷史は人類の傳紀なり、天、地、人、國、を觀るとき、ライフ(生命)を觀るの眼識あることを要す。今人多く外形骨骸に眼を着けて、血と鼓動とに留念せず、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

テヲツフヒズム、ヒプノプチズムの十九世紀に起り來れると、偶然にあらざる也。

○山中の夕暮

山に入りて世を厭ふの心地生じ、夕ぐれに當りて悲しき思ひのするは、健全清平なる人の情にあらず。邦人久しく佛教の感化に染み、兎角に世を厭ふの習はせあり。木の葉紅染して赤く照り、夕日山の端に逆し光やかに紅なひする状あらざるは、深く歎ずべきと也。ミセス、ブツチンの歌に、

夕暮靜かに祈せんとて　世のわづらひより暫し逃る。
神より外には聞者なき　木かげにひれふし罪を悔ゐ。
過來し迹を思ひつゞけ　いよゝ行末の幸をぞねがふ。
憂ひも惱みも我君に　任するをぞ常とこそせん。
浮世の嵐に漂よふ時も　天の光を見ていよゝいさむ。
身に染渡れる此夕暮の　えならぬ景色を何如で忘れん。
此世の務の果らん其日　いまはの時にも斯てあらめ。

讀む人深く此歌の情を味ふべし、万葉以來[illegible]ども、此邦の詩想あらん者は恐らく一首もなけん、特に純粹一神信念光大に湧發するの情は、邦人が俄に企及する所なりとす。

兒籃

小公子。

第八回（乙）

若松しづ子

さて、フォントルロイが、とうとう席に着升てから見たとで、二ッ嬉しいとが有升た。一ッは、會堂の向ふの方で、自分の見て居られる處に母さんが坐つて入つして、自分を見て、ニッコリして下すつたと。モ一ッは、自分たちの腰かけてゐた、長椅子の奧の方の壁に、面白そうな石の彫物が有たとでした。これは、二人の異様な人が、向き合て、跪いて居る姿でした。二人の間には、石造の經本を二ッ載せた、丸柱様の物が有つて兩人とも祈念に耽つて居る處と見えて、双の手を合せて居升。服裝は余程古代の物らしく、下の碑に、書てある字を漸くに拾ひ讀いたしれ升と、「第一世、ドリンコート伯爵、グレゴレ、アルサ、拜に夫人、アリソン、ヒルデガードの墳墓といふとが記して有升た、碑文の事柄は、今と多少、綴字法が違つてゐて、たとへば、今、iと綴る處に、yの綴つてあるのは [illegible] などが [illegible] [illegible] と書いてある類で、文字の終りに、殊にもたゞeと見え

るeの文字が附してあるのは、Lordy, Earl とあるべきを Lordye, Earlo 書いてある類でした。フォントルロイは、不審が晴たくて、堪らぬ樣で、とう／＼思切つて、老侯の耳に口をよせて、

お祖父さん、ソット耳こすりしても好いですか？

何んだ？

アノ、此人たちは誰なんです？

あれか？あれは貴樣の御先祖で、幾百年も昔しの人なんだ。

そうですか？それじや、僕の綴字は、此人たちに似たのかも知れません、ナイ。

フォントルロイは、今度は、勿體なさそうに、眺めて、

それからは、禮拜式の書物を開き升たが、音樂が始まり升と、起立して、ニコ／＼しながら、母の方を眺めて居り升た。フォントルロイは、唱歌が大好で、母と一處に、度／＼歌つたことが有つたのでしたから、讃美の歌が一齊の時は、自分も人と同じ樣に、歌ふて居り升たが、其聲の清く、可愛いく、高い處は、宛がら鳥の歌ふ樣に、冴渡つて居り升た。自分も、其歌の樂しさに、己を忘れて居り升たが、侯爵さまも、掛幕の深みに居寄つたまゝ、孫に見惚れて、自分を忘れて居られ升た。セドリックは、手に、大きな讃美歌の本を持つて、精一杯に歌ふて居り升たが、悦とばしげに少しく、顏を擡げた處へ、一條の光線がコッソリ、映じ入り升て、染玻璃の金色の者を斜に横切てフサ／＼と幼な顏へ垂れかゝつた髮をきらめかせ升た。此趣きを向ふから開視見た母は、愛情に迫て、身が震へる心地で、同時にいとも切なる、祈念を獻げ升た。それは、幼子の純潔、單一なる心の幸福が何卒、永遠に續く樣にといふことと、不思議にも出逢ふた幸運が、人にも我にも禍を來さぬ樣にといふことでした。いとゞ優い母の心を、此頃又千々に碎く事許り有升た。其前の夜も、我子を抱きしめて、暇を告げてゐながら、

アヽ、セデーや、セデーや、わたしはおまへの爲許りにでも、どふぞして發明になつて、色／＼爲になることが云て聞せて遣り度と思ふよ！ダガチ、おまへ、心掛を好くし、正しい道を守り、いつも深切と信實とを盡しさへすれば、それで好ので、さうさへすれば、一生、人の害になることは決してなく、多く人を助けるといふ立派なことも出來るのだよ、このかわさんの少い子が、生れた爲に、廣い世界の人が、いくらか、幸

なるかも知れないのだよ、それでね、セダーや、モー、それに越したことはないのだよ、一人の人間が世に出て、其人の爲に、世の中の人の少しでも、ほんの〳〵少し計りでも善良くなつたといふのが、何より、かより、結構なものだよ。

謹んで教を承つたフォントルロイが、お城へ歸てから、お祖父様に其通をいつてお聞かせ申し、其上何に、とふ云ひ升た。

それからネ、かあさんが、そういつた時、僕、お祖父さんのよく考へたんですよ、ダカラ、僕、云つたんです、なんても、お祖父さんが世の中へ入つしたんで、よつぽど、人がよくなつたにちがひないつて、それから、僕も其眞似をする積りだつて。

御前は、少し安からぬといふ樣な面もちで、

そこで、お祖父が、なんと答へた？

それは結構なこつたから、なんでも、人の好い處を探し出して一應懸命で、それに傚はなくつちやいけないつて、いひ升たよ。

此の時、老侯は、赤松の垂れ間から、眼光を放ちながら、前の事柄を考へて入つしたのかも知れません。老侯は、多くの聽衆の頭を越へて、向ふに、我子の嫁が獨り坐つて居つた方へ眼を放つて、勘當受けたまゝ歿した人の愛した、美しい器量と、今、自分の側に坐つて居た、子供に好くも似た、眼附とに、氣を留めて居られ升たが、心の中は矢張り、執念く、頑固で有つたか、或は少しは柔らいで居つたか、其邊は甚だ知り惡いとでした。老侯の一行が會堂を出られると、禮拜式に預つた者の中で、多くお通りを待て、立つて居り升た。門に近づいた處に、手に帽子を持つて、立つて居る人が、一歩前へ進んで、御躊躇して居り升た。此人は、壯年過ぎた、百姓らしい者で、浮世の苦勞に面痩して居升た。侯爵は、早くも、

云ふた、ヒッギンス？、

フォントルロイは、急に振り向いて、彼を見升た。そうして、

ア、此人がミストル、ヒッギンスですか？、

侯爵は、冷淡な調子で、

そうだ、大方、新しい地主樣のお目通に出て來たのだろう。

ヒッギンスは、日に燒た顔を、赤らめつゝ、

御前、其通りで御ぜい升、ニューウィック様のお言葉に、若様が、此下郎のとをとりなして下さつした、といふとで、

御ぜい升たから、御免の蒙つて、一度、御禮を申たいと存じて、ヘイ…………

思掛けなく、自分の大難を救つて呉れた者が、この通り誠に幼い子で、逆に拙ない自分の子供と違つたともなく、威張る處などは、少しも見へず、あどけない顔をして、自分を見て居られる様子に、少し驚ろいて、フォントルロイに向ひ、

若様、誠に、お禮の申様も御ぜいません、誠に、有難う存じます、アノ…………

フォントルロイは、其言葉を遮り、

ナニ、僕は、たゞ手紙を書いた丈ですよ、それを爲すつたのは、お祖父さまです、ダケレド、お祖父さまは、いつでもなんですものネ、誰にだつて、好いんだもの、細君はモウ好くなり升たか？

ヒッキンスは、少し氣後れがした様子でした。此人も亦、大殿が美徳を積んだ、慈善的の人物の如くに稱へられるのを聞いて、多少驚ろき升た。いま答をしよふとして、少し訥りながら、

アノ、ナニ…………若様其通りで御ぜい升、かゝも心配がなくなつて、大きに宜しくあり升た、病よりも苦勞の方で、弱つて居たもんで…………ヘイ。

それは、好かつたと、僕のお祖父さまも、あなたの子供が、膓チブスだつて、大變氣の毒がつて、僕も氣の毒でしたよ、お祖父様も、子供が有つたんですからネ、僕はお祖父さまの子の双子ですよ、知つてませうネ？

こふ聞いて、ヒッキンスは、たまげて倒れそうになり升た。併し、氣を利かせて、侯爵さまのお顔をある丈、見ない樣にして居升た。侯爵さまの、親子の間がらの疎いとは、年に二度位しか息子供にお會ひなさらぬ程で、又其折も、ヒヨツト子供の病氣といふ様なとが有れば、醫師や、看護人がうるさいとて、早速、ロンドンへお立退きになつて仕まい升たほど故、此事を知るヒッキンスは、氣の毒さに堪へませんでした。果して、侯爵は、其通で、他人が膓チブスを思ふのを、意に介するとなどがあるかの様に云て、間が惡く例の太い眉の下から鋭い眼光が輝いで居升た。侯爵は見事に、酷い笑顔を見て、

ヒッキンス、此通り、貴様たちはおれの人物を誤まつて居たんだ、フォントルロイ丈は、おれを本當に見て居のだから

おれの性質等に付て、確實な所が知りたくば、こゝへ來て尋問するが好いぞ、サア、フォントルロイ、馬車へ乘れ。
フォントルロイは速ぐと、飛び込み升た。そして、馬車は緑の牧場をゴロゴロと轟かせ、走り升たが、大道に出る所の角を曲つてからも、老侯の、嬉そうな笑顔は、また失せませんかつた。

世風上痛歎して嚴な責むるの文辭を寄せらるゝ時、たとひ其姓名は公けにせずとも本社記者に明報し責任を負われたし。然らずば、誤つて誹謗に陥り遂に其事實を探知しがたき弊あらんを恐る。例せば某太子供奉員が古市の遊廓に於ける最大怪事の報道の如き是也。若し事實確定せば、何如なる人物に對するとも宜く糾責すべし、是れ女學雜誌世に存するの責任也。

雜録

春と秋

明治女學校修身科問題四の中の一に、春と秋と何れか樂しき、若し共に樂しとせば其思分きがかき心の有樣を記せ、と云へるに對し本科二年生（高等小學卒業后一年半修學）の答の中、五つ六つを左に記す、一時間內に四の答を記したるものゆへ、讀む人素より其心して見玉ふべし。

（其一）

此頃も先生に伺がひたる如く何を見るに付ても己の不幸を感じ身心收縮するやうになりまして世の人が春花さくとか緑草が芽出すとか申し或は散步して之を樂むやうなれども私には反つて悲しくなります、之は私の心が低くして春の如く花の如くなれぬからの事であります、秋來れば木の葉落ち虫鳴き何となく悲しく春に比すれば一層感じます私は秋の深夜一人靜かなる部屋にありて勉強する時此悲しみを增すと共に勇みの心をいよいよ生じます、何につけても事々物々己れが務を盡すとの不足を感じます、何卒勉強を願ひます、私は進步して心の安んずるやうにならざる中は何を見ても樂は無いと思ひます。（さゝき）。

（其二）

春と秋とは何れも時に隨りて樂し、春は四方の景色も長閑に木々の鳥は天地の美景を見よかしと促がすかの如く、花は冬

の間にNatural Motherの神の惠を蒙むりて今は春にあひ美はしく咲き出でたるを悦こび顔に告げ居る樣子かとあやしまれ何となく天地の極まりなきことを思ひうれしく特に此卧期に於て「觀察」など云ふことを伺がひたれば來ん春には如何にもして天地の細かき所も實見しまた神の深き御心をも何如斗り覺ゆるならんとうれしさ限りなし。又秋は冷風の吹きて身にこちよく覺ゆ、月のさやかなる夕べ過來し方をかへり見て是非を思ひ實に益すると多くあり。秋も春も共に樂しき時節にぞある。（わ、の）。

（其　三）

私は何れも樂しきことを思ひます何んとなれば天の造り玉へる者は何一つとして調はざるものなく又樂からざるものなし、或人の言へる如く春は空も自づと新鮮にして四方山には香ばしき花を咲き人々は皆なはでやかに裝ほひ盡して所々の花の本に遊ぶなど實に樂しきことなれど秋は暴風吹きて木の葉の落るなど誠とに身に染む如く何となく悲しく思はる」となれど私は考がへますに斯く春は樂しく秋は悲しと思ふは他に何か此天然の樂しみを妨ぐるものあるか又は昔しの人の悲しき秋の歌などに因るかと思ひます、夫故私は思ひます若し自分の心にかへり他の事を思はずに見る時は奇麗に色づきて落る木の葉も又春になりて新らしく芽を出し花を咲き實を結ぶ下ごしらへなるか眞とに天然は立派に造られたるものよと考がへ又風吹きて肌冷しき夕ぐれに閉こもりて家内うちつどひ兎や角と四方山の話をなすなど誠によき折と思ます。（み、ま）。

（其　四）

私は春になれば人の樣に花見にも參りません又秋になりましても何も感じたとは御座いませんが秋の方を好みます何故となれば春は人の心が花や鳥と共に浮き立ちて居りまして何んにも善き考が出ません外見からなれば樂しそうに見えましやうが心の中では身を省みる暇が御座いませんから惡しき行が積つて居りますゆへ樂しくありません併し秋になりますと何處となく靜かで御座いますから月を見ても木の葉一枚づゝ落るを見ても自分の身の上に付て考がへ今迄の惡き行ひに付き好く考がへて改めようと思つて居りますゆへ人の目には見へませんが自身の心の中が少しづゝでも正しくなりますから何となく樂しく思われます、其故に私の考は尤とも不充分で御

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

座いますが秋の方が樂しく思います(み、ま)。

（其　五）

春は昨日までも皆冬枯して見るかげさへもなかりし四方の景色も暖たまり彼方を見れば木の芽も笑ひ固く結びたりし花の蕾も笑を呈し赤に白に緑に色々の花咲き又百千鳥は谷より出でゝ南枝に囀ずかしくうたい遊び心地よき温たかなる風そよ〱と吹きまだ咲き出でぬ花を誘ふなど實に鳥の聲は自然の音樂即ち天の樂を聴く如く又千々の花さく野邊に行きて心おいたる友どちと閑居して語り居ればなつかしさ何にたとへんものなく宛から浮世を離れ來てきく彼のエデンの花園どやらんに遊ぶもかくやと思ふほど樂しき思ひありされどまたつく〲と思へば斯花麗はしき美妙を盡したる景色も乍ち花散り緑の木の葉は落ち後ともさびしくなりまた花の咲きて麗はしき時は世の人々の何の考もなく花にたわむる蝶の如くたはれたるとなど爲して何の考もなく己が身の如何にありゆく可きかまた何の爲に此世に生れ出しやも考へでたゞ花の盛りにたわむれ散りて后はまた見向もせずたゞ花の散るを怨み風を惡むが如き狀を見るにつけ己が將來の事思ひやられ少しも樂しく覺えず却つて悲しくのみ思ふと多し。また秋になれば春にて麗はしかりしも皆失せて殊どに何となく世の中がさびしく思はれますが人と云ふものに付て考がへて見ても一度は盛りがあれば必らず一度はまた秋の如くさびしくなるときが來るものであります夫で外の方などは存じませんが私などは兎角春の如き何となく人の心も浮立つやうの時には后に秋の如き時が來ると云ふとを十分考付くとは出來ませんなれど秋になると何となく自分の身を顧みて少しく考へるやうになります、して色々の事を考えて其事の眞理が分るほど心に滿足の事は御座いませんそれゆへ春もさとも樂しく且つ愛しますが色々自然の理を考がへるとなどに付ては秋の方を尤ともよろしく存じます。(く、と)。

（其　六）

凡そ人たるもの和氣靄靄たる最と樂しき春を捨てゝ金風蕭殺たる寂然の秋を愛するものあらんや然れど世の繁雜を厭ひて花の袂を墨染の衣に換へて山深く浮世の事を他所にする一種風變りの人ならんには如何ならん花咲く春には人知らぬ深山櫻も世にあらわれ山にかく分け入るを憂き事と嘆ちて却りて

物淋しき霜枯れの秋をこそ愛るならんか左は云へ心なき身にも哀れを知られけりしぎたつ澤の秋の夕暮、この歌を以て見れば世を果敢なしと捨てし人も浮世の營利に汲々たる人もなどて人たるものは樂しき春を捨てゝ淋しき秋を愛すものあらん夫れ春は一陽來復の候と云ひて烈しき風嚴しき雪霜に吹き落され枯れ萎ほれし草木の再び萠芽して麗はしき花をつけ香り芳しく遠近の山々や野邊も一面に青々と緑してそらに飛交ふ鳥の音はさながら氣中の鈴かと疑はれ氣候も暑くなく寒くなく秋のせわしく短かなる日に比ぶれば日もいと長く長閑やかなれど春の樂しきは有情のもの一般の感情とこそ思ゆれ然れど我は思ふたり春秋の樂しき樂しからざるは外形的の觀察にして自己が心中憂苦あるとなく淸く安らかならんには春も樂しく秋とてさして樂しからずと云ふとなかるべし之に反して心憂ある時は長閑なる春麗しき花音樂の如き鳥の音も樂しき事なく之を聽き之を觀るも憂を散すよしなく却つて轉たゝ物想ひの種なるべし故に妾は謂へらく春の樂しき秋の悲しきを感ずるは人の心奈何にありと古歌に結ぼれし心の氷解けやらで春とは知らず春は來にけり、かゝる人の心にては讃にある如き春の景色を見るも樂しく感ずるとあらざるべし故に外形より見ては春こそ樂しく覺ゆれど内情より云はゞ其人の心何如がによるあらんか。

薔薇の殘花

在衣浦　雲峰生

天日熱は未だ薄らぎしとにはなけれども暦は我につげて早や秋來りぬといふ、天地別に蕭殺の氣を含むにあらさめれど秋とし聞けば自ら心さびしく、朝夕は風も身にしむ心地すめり、嗚呼天地こゝろありて我を斯く感ぜしむるか、將た我心しか變りにけるか、日は移り、水行き、世變り、心動くさま賴むべきか賴み難きか、古來詩人多くは不運の人多哀の者、文學史上金玉の文字は誠に是彼等が熱涙の痕のみ、千百歳のもと彼等の心情を思ふ毎に否彼等の涙痕を踏む毎に轉た同感に堪へざるものあるなり、某詩伯一詩をものして(Tis the Last Rose of Summer)と題す、其詩想甚だ可憐、之をうたふに亦沈鬱の調をもちゆ、(卽ち唱歌集第三卷にあり、其一節に、

庭の千草も、虫の音も　枯れてさびしく、ありにけり

あゝしら菊、あゝしら菊、獨りおくれて咲にけり。
云々と云へる歌の譜を寫し）時に月に對して感に堪へざるの夕、或は秋風窓を打つの朝獨り之を唱して彼詩人に同情を表し、一は以て我憂を行る、孤客今日往事を追懐し、嘗て共にうたひし一友に送らんとて匆々譯出す、猶し浦上秋日に坐ろ今昔の思ひ切なればなり。

一　ひとりおくれし　花うばら、
なつの終りに　咲きにけり、
なつかしき　わがともは、
はやく萎みて　ちりはてぬ。

二　わがしたしまむ　花もなく、
うばらの芽さへ　見えなくに、
なさけある　こゝろもて、
なげきをわかつ　友もあらず。

三　ひとり木ずへに　なやむなる、
汝をばわれは　見すてじな、
うつくしき　花ちりぬ、
汝もともにと　眠らなん。

四　いろかもうせて　ちりはてし、
花ぞみ園に　ねふらなん、
われはいま　ねんころに、
汝をふし床に　ちらさまし。

五　友のまじらひ　たえはてゝ、
たまともたのむ　睦人は、
はかなくも　うせんとき、
我も汝があと　ふみ行かん。

六　まごゝろもてる　ともはうせ、
あいはる人は　逝かんとき、
嗚呼さびしき　嗚呼わびしき、
この世にひとり　居るべしや。

スポルジヨン

宗師は壯んにして、心靈界を動かしたる偉業驚ろくべきものあり、前途尚は人の多くの望みを荷ひたる、チャーレス、ハツドン、スポルヂヨン氏危篤ありとて、斯る聲四方にひそめき聞ゆ。

六才の頃ろ、祖父（宣教師たり）に負はれ乍ら、其教會中の一人某、酒に耽りて度なく甚はだ憂ふべきよしを小耳に挿み、獨個にて其酒屋に行き、某が酒を飲む所ろを見て、「アナタは教會の人でせう、夫にナゼお酒を飲ますか、ナゼお祖父さんに心配をかけますか、牧師に心配させることがありますか」と詰り責めたり。某は、うち驚ろき、初めは之を笑ひたれど、此の六才の兒が眞面目なるを見て遂に畏れ服し、后ち祖父なる牧師の許に來つて罪を謝しぬ。

元來早熟の質なれど、天資固より世の常ならず、少くして既に子供說教師の名を博し、十七才にて、チータービーチの牧師たり、二十才にて、ロンドン新公園道の浸禮教會衰微として振はざる爲めに招聘せられ、行て三月たゝざる間に、堂内會衆を容れがたきほどとなりぬ。后ち、サレー、ガーデンの音樂館を用ひ、聽衆一万人に備ふ、毎日曜日人塡充して寸地を遺さず、上下をしなべて來聽し、女王陛下も早く此の小年牧師の足下に謹聽したりと言ひ傳ふ。

氏は非凡のコンモン、センスを有し、深く人の情を知る、說教には、賢こ氣なる言葉又六かしき議論を用ひず、語々大ひある眞情より發して、直ちに人の中情を刺す。嘗て云く、余は雄辨と云ふものを惡む、余は出來べき丈け尋常地に下るべし、將に死せんとする人の魂しひに對し乍ら、高く飛んで美しき言葉を噺づるものは、兇惡の人也と。

或る名高き人、氏を評して曰く、

スポルジヨンが熱心は驚ろくべし、彼れ何事にも打勝つ、其語るや、全く神と同情を有しつゝ語る、語々勝利の音あり、其歩みは飛ぶが如く世界が嘗て見しと云ふ最大の勝利に向つて進む所ろの偉大なる將校なり、人の隱れたる心々くは氏が天職の何たるやを能く悟り知る、彼は固くクリストを抱き、十字架上の人、全世界の人類を彼に引寄すてふとを尤とも固く信ず。

其ホームは美の美なり、夫人の内助極めて多く、スポルジヨンが說教の出版は多く夫人の助けによる。

○日本婦人の進步

ボストン婦女雜誌六月末の號に、フロラ、ベスト、ハリス夫人が寄せたる「日本婦人の進步」と題するものあり。初めにわが女學雜誌の事を記し、次に、其記事中より近代著じるしき

日本婦人の進步の徴候を抄出し、頻りに之を責めたる後に云く、米國の人近日日本婦人の醜業者に對して云々の議論ありと云へど、何ゆへ日本の醜業者にのみ若く嚴しくして、同様なる米國の醜業者に付きて默せるか、又、歐洲諸國より移住し來るものにも同じきほどの醜業者多きを何故日本の婦人のみ特に悪しゝとは爲す、日本には廢娼の論調非常の勢力を得、婚姻上の風尚到る所ろに最高く、政府に於ても十分の取締あらんとす、たゞに少數なる日本婦人の醜業者に付きて彼此言はん人は、宜しく先づ近代日本婦人社會の進步の程を考へ玉ふべし、云々の主意なり。

○どふも時のたつに隨つてもの事のうらはらになるのは不思議な物ですネ、アノ古谷ひさ子さんネ、アノ人に器量は私が御一處の時分、二つか三つか四つ私の上だつたんですよ、そうすると、今ではモウ私より三つ四つ若くおなりなすつたんですもの。

○子供、丁稚に向つて呵責せる父に向ひ、
とうさん、べらボウめつていふのはわるい言葉？エーとうさん、とうさんては、アノべらボウめつて…………
うるさそうに顔を顰めし父親、
あんたとべらボウめ、わりいに極まつてるワ、

○母。夫に向ひ
おまへさん、一寸お聞なさいよ、赤がマア、始めて物を云ひましたよ、嬉しいぢや有ませんか？
夫。フーン、なつといつたか、
母。アノネ、けふ博物館へ連ていつたんですよ、今度アノ猿の居る處へ來るとネ、大きな口をあけて「ア、とうちやん」つて、はつきりいふんですもの。

○嫁入仕度調へに都會のさる呉服やへ來りし田舍のばゝ、彼是品物の價をたづね、
ナンダカおらあ、チツト、價が高樣だとおもふがどふだんべ？ナア、番頭さん、
番頭。どういたしましてヘイ私どもぢや始終掛値斷りして賣つて居る次第ア、ヘイ
ばゝ、アレそれぢや、おまへさんちや、どふしてくつてるだへ。
番頭。ナニ、そこは數でこなすんですヘイ、
胡風かされて、ばゝ迂遠ながら口を鉗む。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

この心

方寸子

信、愛、望、を增させ給へと祈るべき乎。己れ自ら信、愛、望、の幾分を有して、初めて其上に天よりの賜來る。獨立自治、天は自から助くる者にあらずば、得て助けざることを。斯く信じ來りてより、わが心は友をも世をも凡てを賴まで獨り悠々、高く愈や高く、深く愈や深く、超然として靈の別天地に進み來りき。時に心界の原野、閑澄荒寥として恰かもこれ、見渡せば花も紅葉もなかりけりうらのとまやの秋の夕暮の景ありける。さるにても、坦々たる大道愈よ聖らかに開かれ、燦爛たる天地の榮光ますます明らかに觀え來りて、古來の聖賢が由りて以て悠々せる奥妙の意の、少こしく悟られ得たる心地す。

諺にいふ、友とは己れの外の己れ也と。われ振かへつて己が週圍を見る、人間の何ものか我が衷心のわれなる。嘗て愛され愛し、信じ信ぜられ、望まれ望みし其こゝろ、爾來わが慰藉、奬勵、平和、微笑の泉原なりしに、今や此泉原知らざるのうちに代謝して、唯わが身の外に移されける。われ人界の命運に感じて寂漠堪え難きの時、人間の何ものかわれを蘇生せしむる、只われ漠々たる天地の間に蕭然佇立して、獨り微笑を見出し來る也。われ人界の凡てを賴まで愈よ天を望みて進む、顧ればわが嘗ての境遇遠く距りて歸るに由なく、仰ぎ見ればわが前途の進み高く懸りて亦邈然。ア、われ何をか賴みてわが將來を托せん、ア、われ何處に往きてわが生死を安すんぜん。斯くて初めて知り得たり、わが信ずるクリストの道、實にこれ唯一の生命なることを。唯一、唯一、われ唯一と謂ひて而かも唯一と悟らざりしかば、一向專念の渴仰に乏しく、さては地に落ちず天に昇らざる中空のわれにてありける。

されど謂ふ勿れ、汝ぢ自失せりと、而りわれ自失して活きたり。されど謂ふ勿れ、汝厭世せりと、而りわれ厭世して今世を愛す。されど謂ふ勿れ、汝ぢ信、愛、望を離れたりと、而りわれ離れて新たに之を得たること。蓋し人界を離れて脫然、而も能く人界の人なり。萬物を脫して澄然、而かも能く人間の情あり。敎徒、クリスト敎徒とは世と横に區別せられたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人種の階級にあらず、高く縦に區別せられたる者の謂ならんか、イザヤ謡ふて曰へらく、かしこに大路あり、そのみちは聖き道ととなへられん、穢れたるものはこれを過ること能はず、たゞ主の民の為に備へらる、これを歩むものはおろかなりとも迷ふことなし、かしこに獅子居らず、あらき獸もその路にのぼることなし、然ばそこにて之にあふことなかるべし、たゞ贖はれたる者のみそこを步まん、エホバに贖ひすくはれし者等うたひつゝ歸りてシオンに來り、その首にとこしへの歡喜をいたゞき歡喜とたのしみをえん、而して悲哀となげきは遁さるべし。

家政

○保姆の乳　山下石翁

我兒に保姆の乳を與ふるに如かず」とは、英國女王陛下が、嘗て今の皇太子を育て玉へる時の言葉にてありける。實に、我愛する所ろの兒には、我自からの乳を與へたしと思ふこそ、母の眞情なれ。一掬の飲を與へたる同胞に、終身を他人の如く思はず、三日家に寄宿せしめたる人すら、何となく床しきものあり。然るを我胸に抱き添え、血に次ぎて神聖なる我乳を犠牲にして與へ、万事を知らずして只無我に信じ懐く幼な兒の一命を兩の乳房にて支配する時の心地は、抑も何如ん。之が為めに母が愛情を引起すとの限り無きは當然なり、乳を飲せたる時と飲せざる時との母の心持に相違あるは此故なり。

されど、万止事を得ずして、保姆を雇ひ、我愛子に乳を給せしむるときは、先づ保姆の遺傳、身體、産時、乳質などを細かに吟味すべきはいふ迄もなけれど、世人が兎角に忘れ易きに、保姆の氣質、人となりを穿鑿するとの足らざる一事にてあるなり。

何の觀念もなかるべき赤子を養育するに、保姆の人と為り何如は大したる關わりあるまじなど豫想するものあり、以ての外の僻なり、夜間、乳を飲ます間の感化は、縱ひ三つ四つ以上となりたる后の感化とは異なり、即はち、其期間上よりして之を感化するとは左程多からずと云へども、其飲ます所ろの乳汁の質の上よりして、莫大なる感化を及ぼすとあり。之を思ふときは、悚然として驚駭の念生ず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夫と喧嘩を爲し腹立まぎれに乳を含ませたる或る母の子は、即時に引付けて化せり。心いたみ、何事か甚はだ苦しく感じつる時、乳を飲ませたるに、其子非常の腹痛を起したるとあり。さめ〴〵と泣き乍ら、乳を飲ませたるとき、其子何故とは知らず亦さめ〴〵として泣きたるとあり。かゝる實例極めて多し。そは、母又は保姆の心持何如んは、直ちに乳汁の上に影響し、之よりして、感覺鋭き赤子の一身の中にも、莫大の感化を與ふる故なりけり。

左れば、心ねぢけたる保姆の乳汁は、亦自づから其感化なくんばあらず、腹立やすき保姆の乳汁は、亦自づから其感化なくんばあらず。惣じて、保姆の氣質は、乳汁と共に流れて、赤子の全身中に浸潤すべし。

たとひ亦た、保姆の氣質左程に惡しからざる時も、家内の人の持なし方宜しきを得ざる爲め、保姆が心に樂しからず感ずると度々あらんときは、其都度、其面白からぬ影響を乳汁と共に最愛の子の一身に吹込まんと必定なり。之を思ふときは、保姆を遇するの心得は、一家族の人、特に細君たり母たる人の最とも切に注意すべき所ろのものなり。

嘗ても出したる如く、保姆をして最良の保姆たらしむる秘訣 一七
は、之をして自から親心を起さしめ、責任を自身の上に負はしむるにあり。もし人の子を預かり居ると云へる如き感じを持たば、何如に心得ある婦人にても、之を眞との我子の如く持なすとは難し、況してや學びたるとの少なき保姆に於て何如で此の高尙の覺悟を振ひ起すとを得んや、故に先づ保姆をして自から親心を生ぜしめ、其子を我子の如く思はしむるを以て秘訣とす。扨て、此秘訣を行はんには、子供の取扱ひ風に過まちあるとき、保姆を叱らざるをもて第一の心得とす。若し之を叱るときは、保姆は直ちに「預かり物と」云ふ感じを起し、遂には心中の不平を赤子の上に返報するともあるべし。故にかゝる時は、穩かに保姆と談し合ひ、其赤子の身の上を共に心配するの心地にて取扱ひ風の改良を計るべし、然るときは、保姆も喜んで之を改たむべし、改ためざれば耐へざるほどに心配して之を改たむべし。此は、現に保姆を雇ひ居る人の實際の經驗なり。此人は平素、保姆に赤子を一任し、赤子の泣くときも、わざと自から行かず、成べく保姆をして之を慰さめさすれば、赤子は保姆になつきて寸時も其傍らを

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

隱れず、たとひ父母在すとも感なきの狀あり。されば保姆が此の赤子を慈ふとの篤きは、生みの母と些も異なるよなし、其實子の他に預け在るものを一と度びだも思出さず、此の赤子の事は少にだも忘れたるよふきの狀なり。而して、かゝる關係に於りたる元因は、保姆をして自から責任を負はしめたるにあり、責任を負はしめたる工夫は之を叱らざるを以て第一の法となしけるとぞ。

大凡そ此國の風俗を以て、常に保姆の心を平らかならしめなば、其乳汁の質も亦た溫和にして、自然と赤子の心の上に影響し、赤子の心も亦た平らかに溫和なるを得べきなるべし。故に接待、保姆の人となりに注意するに第一の用心なり。其后お保姆の心を平和ならしむるは、日常の風俗なり。

小説

素より浮草娘ごしてみれば淮北の枳もとの色香にうせました

いさご

瑞西國ゼネヴァの夏の夜、かの歷史に。有名なる湖の水上祭、市街を彩りし裝飾は、大小の旗章べこを點綴の種類を盡し、天外にひらる花火は、火の雨の降り下るかと疑る。湖の中央に、又大砲轟きて、觀者おびたゝし。

予「アヽ、いゝ、よく出來た、どうも見事だといふ喝采は、バロン、ホーヘンスタインと、ドクトル、バルトと、予がホテルトラベーの樓上の外縁より、發せし所なり。

バロン「左樣、實に綺麗だ、花火は見事々、あの光の水上に映るさまは、どうもいへん、さうして又大砲の響きの勇ましさ、アヽ、それで思ひ出したが、君は軍を見た事がありますかと、

バロンは、予に向ひてとひかけたり。

予「僕小ひさなのです、普佛戰爭の一際でしたが、隨分大きな音がします、日耳曼人、は軍好きだとかいはれますが、僕はもう二度と見たくはありません、僕の朋友の一人が、千人以上の隊を率て、勇ましく出陣しましたが、討死しました、其家の悲嘆を思ひやつた日には、軍の勝利も慰めには成ません。

バロン「オット、僕は、軍がわるいものだといふとは出來ない、軍のおかげで、僕が一生の幸福を得たから。

ド「ヘー、君の一生の幸福それはどんな事でした。

バロン「それは、一ツ噺しさ。

予「一體、僕は咄しが好です、その愛情と軍の干係を謹しんで拜聽しませう」

バロン「其愛情と軍の干係は、どう御咄しゝませう、さう、君、第一、戀しらぬものでは、人生の幸などいふ事を志らないでは。

予「御尤な事です。

バロン「志かし僕は話し下手だから、僕が義兄弟、ドクトルバルト君が、チヨウドこゝに御出ですから、この事については、僕が自身に知つてゐるよりは、よく御存知ですから、先生に願つて、一伍一什咄してもらひませう、祭も彼是仕舞に成升う、マア一吹いたさう。

バロンはそや烟管を取出して、火を點じたれば、予も速かにその眞似をして、吹かし出しぬ。

ドクトルは、微笑して、

ドクトル「イヤハヤ、御都合のよろしい事つた、第一、僕は烟草嫌ひでス、それも君の勝手、ともかく右の一件を咄しませう、全體バロンは、戰よりも話が上手なくせに。

バロン「ひどい御挨拶ですナ、僕は一身を軍事に擲うつてゐます」

ドクトル「まるで反對です、一身の力を談話の上にはことさらだが、僕は僕の持場だけを話しませう、尤君の喫烟中、イヤ、休息中といふ約束で、序幕をやりませう。

バロン「結構、これは、面白い、先物商賈約定です、君の咄しの仕舞には、僕も烟草を仕舞ふ、そこで又僕が烟草を吸かけると、聞手にはいゝだらうが、咄し手には閉口だらう、とにかくはじめた〳〵。

ドクトルは、一寸挨拶をして、左の咄しを始めぬ。

頃は、千八百七十年、今より早七年の昔、ドクトルバルトは、其鄉里ゼテウアに在りて、外科術を業としたりしが、少年ながら其業に熱心にて、普佛の戰端開けしを聞て、其業を以て身をいたさん事を、最初に日耳曼、次に佛蘭西に、干めたりしが、何れにも採用せられず、竟に萬國共同病院に入り赤十字徽章を身に帶びて、事に從ふを得、セダンにて元帥マクマホンの麾下にあり。

同年八月廿五日メーセーとウエントンとの間に在る、僕に三千許りの人口を有せる小市街、ウーシールといへるに、佛軍

は屯駐なしぬ。即前期百年已前、ヴェムーレーの所行につき吟味ありし、アルゴンの森にちかき所なり。ドクトル、バルトは、マクマホンの率ゐたる部下と共に、レーロ及シャロンより進み來り、將軍ドーエイの手下第七師團に屬したり。大方は其地にて假に野病院を建る見込にて、全く永く分營の地を定むる趣向にてはあらざりしに忽にして手負の兵充滿せり。この時元帥マクマホン、如何なる支障ありしにや、優游躊躇ともいふ最忌むべき情狀ありし事拒ふべからず。蓋し元帥は陣術何軍の方略を取りて、先巴里に退守すべきか、又は政府の指令に從ひ、メッツに籠城したるバセヌに應援すべきかしからんには亦た普國皇太子の引率ある普撒兩國聯合の日耳曼第三枝の大軍に敵せんこと容易ならじとおもへば爲るべし。

マクマホンは、この兩端の間に決する事能はざるを、日耳曼軍は、其國風の慓悍なる、直にこれに迫りたり。こゝに於て、廿六日に佛軍は其騎隊先鋒と第七師團と、皆輕兵接戰の用意をなし、此大軍の右翼として、第一に敵兵の進撃に當らんとす、將軍ドーエイハ、其兵を分ちて、高處に拠り、狙銃をあつめて、一介の下に敵を衝かしめんと構たり。廿六日の朝に至り、參謀本部よりの軍令として、メーゼールを經て巴里の方に退軍すべき旨傳へられたり、抑一旦定めたる軍令を改たむるは、軍事上最も忌む所なり。第七師團は不得已ブザンシーの方に赴きぬ。マクマホンは此役を以て、バセヌに聯絡を通じ、孤林の一戰を試みんとせしに、都終に此のごとく、結句佛蘭西帝政の滅亡をなす結果にいたりしは、せんすべなかりし事どもなり。この日の午後に至りて、第七師團ハウーシールを三四次に打ち越しぬ全軍敗頽潰亂のさまは、口々に猥しき唱歌をうたひ、憚る所もなく、勇氣消阻してたゞ自ら其死につくを咒咀するものゝごとし、あさましといふもおろかなり、こゝに步兵聯隊の一士官に、ドクトルと交を結びしもの、手を負ひしにより、隊伍をはなれ、ドクトルこれを從に扶け、夕暗にまぎれ、ウーシールの方へ至らんとする途、一步もすゝみがたき迄敵軍の步兵騎兵大砲糧車の類充溢たりドクトルはあなたこなたさまよひ、一步行ては二步退く行惱にて、たどり行に、方向を認めおかざりしかば、はてなき曠野に迷ひ出、除小屋の中に一夜を過しぬ、曉光洩るゝにおき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

出て、ウーシールに赴くべき道を考へ、ドーエイは僅にかの地を守るなるべければ、自身も活路を得べしおもひて見わたす樹林の陰より、ウーランの一隊馬蹄の音に耳を驚かして現はれ出たり、そのうたふ聲いとさまじ。

朝日の光りは紅に／＼照らす陣屋のくま／＼昨日はさやにおさめたる刀おつとり、今日は又、雨霰なす矢丸の中

明日は霜雪消殘る野末ぞ命の捨所御神と國の爲なれば

先きに佛軍にて聞しとは、聲色朗らかに趣きことなりて聞ゆ。兩國勝敗の分るゝ所なるべし。ドクトルは、猶其間に彷徨し、味方の者に出會んとせし折柄、騎馬なる下士官近よりきて誰なりやといふ。我等はウーシールに赴くものなり、かしこには赤十字社の萬國共同病院ありといへど、猶疑ひて間者なるべしといふ。ドクトルは、赤十字社の服章を示し、手提の内に藏せる醫療器械をも見せたれど、不幸にもドクトルが忘れて置きつる通行切手の有無を詰て、只管間者なるべしといふ。折柄尉官きたりて樣子を聞、通行切手を所持せず、佛蘭西口調にて日耳曼語を話す杯、佛蘭西新入隊の兵士の化たるものと覺ゆ、早く打殺せとの號令に、ドクトルの性命は早保がたくみえぬ。

此時早く彼時遲し、高等佐官出來りて、何れにて醫學を修行せしやといふ。ゼネヴァとワルスボルグの大學校にありし趣を聞て、又敎師ゴイリングを知れりやと問ふ。ゴイリングは、ドクトルの師なり。數々ドクトルの疑問に對へて、其實證を示せしものなりとのこたへをなせり。

是の無罪漸く明らかになりしかど、拘留するは役義のおきてなれば、猶吟味全く終らん迄は、囚徒として我方にとゞめおくべしとのことなりしに、ドクトルは雀躍して喜びぬ。

ドクトル「ア、あの時の性命をひろつたは、たれの御陰でせう即ちこゝに御出のバロン、ヘルマン、ト、ホーヘンスタイン君です。不思議でせう。それから三日目は、セダンの敗軍佛蘭西帝國の滅亡、日耳曼一統の帝治こゝに始まつたんです。其翌日僕はこの新知己の助けにて、日耳曼軍醫の手助ケを許されました。こゝぞ勉強して腕前を見せやうとおもひました。その時、醫科の參謀本部の命を以て、員外參謀の推薦をかたくりました。いよ／＼バロン君に隨行して、巴里の寄手の中に加はつたのです。さア、こゝから次は、バロン君の番だ。

バロンは、烟草の灰を指もて彈き。

バロン「よ、やりませう、だが、手短かですぜ、僕は餘計な事は嫌だから、しかし第一に、ドクトルの咄しは、チト誇張過ぎると思ひ、肝心要の咄が落たから、先生は僕の老友將軍ホンエルセンバリム君の火傷に繃帶を施し、自身親ら掖んで、戰塲より扶け出し升た。其時は、實にいさましかつた。どう〳〵國王陛下、モリトケ將軍からの私の賞狀を賜はつた位で、それは戰士が鐵十字の勝軍牌を佩びたよりも名らかつた。それから、それは、それでよしとして、さつきの咄し通り、一所に巴里へ行ました。同じ籠城中ですから、莫逆の友となつた。その時は、冬で木枯が吹あれて、隨分難儀なことでした。シントユロードの砲彈に、僕が手を負ひ頭を横なぐりにやられたもんで、頭中も見えるやうな傷が出た。みんな醫士達が助からないといつたを、命の親だと看護つてくれたのは、此先生です。丹誠にお蔭でせう、僕が先生の命を助けたより、先生が僕の命を助けた數の方が増てゐるかは。僕には分らなかつたが、強て聞けば、治療の功名を讓位を分たず看護してくれた親切は大したもんだつたさうだ。さうしてまた、其時の看護は、あれがしたのです、あのやさしい眼つき、あの可愛らしい笑顏、あの清らかな容貌、僕はつかれてみたから、實に天女かとおもふほどで……、僕の枕のもとにそつときて、飲物をくれた時なんぞハ……。

ドクトルは、心から笑ひだし。

ドクトル「それが僕の妹ルシーサ、一昨は僕が手を負つたといふ誤報がセチツアに聞えたので、看護の爲に來たのだが、僕の代りにおいの看護をさせたのサ。

バロン「それがほんとの天女なら仕方ないけれど、僕は實に戀愛の樹に陷入つた。其次の年の五月頃、晴わたつた朝氣色に、少し運動が出來るやうになつたので、園の栗の木の下に共々步行して、どう〳〵心中を打明けて、わたしはなんと御禮をいはうか、今度の介抱にといへば、何御禮々々、あなた御兄様を、も少しであなたをお殺し申しさうでしたと、いひました、それから僕がまた、冗談ないまじめなはなしです、そこでわたしが、もし手を負はずば、あなたはわたしの看護婦に御成りなさらう筈がない、そして私しも幸福の時を失ひましたらう、あなたのあの御兄様はわたしが命を助けて下すつた大恩のある方です、あなたも其上又助け手の一人になつて下さらないか、ルーシーさん、私しはあなたがもし夢に顯はれた天女であつ

て、その夢が醒めたらさぞくやしかつたらうと、おもひ升といつた、答へに、ルーシーさんが、なんといつたかと、いふことは、ちつといひにくいけれど、その眼中で、六方はよみ得ましたから、直にこの先生に噺したら、甚恐悦で、事も終りをつげましたから、僕は歸りがけ、ゼチウアに立寄、その地の親族達へも交際を結ばせやうといふことに成ました。此事には、僕も直に同意をして、僕の親のヌレンボルクなる姉と妹ナタリーにも、其折にゼチウアにきて、殊に面會せよと文通しました。僕もこゝに數週間は逗留の積でした。ナタリーも、碧眼紅臉の一美人です。そこで此面會から、先生とも相愛す樣に成升た。ルーシーの親属に近付きになつた日に、妹ナタリーも、先生との縁談約束がとゝのひ、我々等は同日に婚儀を果し、一年はさみに、先生とナタリーはヌレンボルクに來訪し、僕等はこのゼチウアに來る事にしましたと、物語る。予は、この物語りの終りに臨み、最一つ煙草を喫ひてから。坐敷へ行き、この兩人の夫人に紹介され、それより一同シヤルダンアンクレに行、茶菓を喫しまして、こゝで僕のヘーレン、チエーンにて引合せがいたしたい、まづこゝでみんな、一對づゝ、夫婦が出來升。

時事

○職工條例

社會問題の先發として、職工條例の議案、本年の議會に現はれんとす、之が爲に、今より既に其是非を評論するものあり、特に實地職工の業に關係あるものにして、早く之に容喙するものゝ見ゆるは、喜ぶべき事なり。但恐る、議院の諸公多くは斯の如き事務に慣れず、或は書生流、肉食者流の鑑定を以て一圖に斷定し去らんとを。此の故に、平素近く此類の事に關係あるもの及び深く此邊に注意せるものゝ意見を要すると極めて切なり。

○新博士

一時に六十餘名の新博士を得る如き事は、海外にても比類なき例しなり、日本の文運隆盛として賀すべきものにや、或は然らざるにや、世に種々の評論多し。假りに博士の號は至つて大切なる者と斷定せんに、之を受くべき人物の撰り官邊に緣故ある者のみに限られたるは何如なる事にや、今の日本には野に遺賢なきとか。又もし官邊にのみ限るとするも、農科

大學の一流、並に（特に）札幌農學校の仲間には、隨分學者多きに、何故此當りより一人も選出されざりしにや。

○海軍擴張

近頃の流行となり、殖民論と共に何人の反對をも蒙むらさるが如し、何事も擴張するは好き事なり、左れど國內の實力に伴はずして、徒に門前高塀の結構を大壯にすとも、國防に左したる影響あるまじ、支那軍艦の一來によりて稱盛の亞流を學ぶは、賞むべき事に非ず。

○北海道

北海道新長官が公平能く亂麻を斷ち、北道開拓の良方途之より將に伸んとす、國家の爲に大賀して可なり。

○九月

酷暑既に去り、清涼代り掃ふ、天地は正に九月の秋とはなりにける。學生諸子が再たび業に就かんとするの英氣今果して旺んなりや、議員諸公が第二期議會の爲に準備するの用意正に今や熟したりや。鴻雁の再たび來り、庭園の稍やく色づくと共に、風は切りに此等の問を吹送すなり、

○女界

女學校も生徒募集の廣告に競爭するとなれり。一時顚倒したる女學上の雜誌の屍を踏越え、新たに進みたるもの二三種あり。女界また少しづゝ繁昌せんとす。

○夏季學校

夏季學校も亦一つの流行物となりぬ、左れど流行物中の好き品なり。但夫れ平常の學問を左して擬りたるとをせず、之に保養遊山の味を少し加へたるのみにては、本來夏季學校なるものゝ目的を達すと云ふ可らず。夏季學校は、酷烈の暑を拂つて身神を清くするが如く、一年の鬱積を散じて、靈性上の新元氣を吹込むとを得る所ろのものなかる可らず、即はち夏季學校には、精神上の感化を要すると最とも多き也。吾人は此等の主旨により、女子夏季學校なるもの、願はくは次年に發起せられんとを希望す。

○演說文章

今や代議自治の世の中となり、言論は隨分自由となりぬ、而して近來光焰萬丈の演說も文章も見聞したるとなし、古への壯士は紳士となり、古への慷慨家は調和者となり、古への自由家は保守論者となりぬ。斯て演說文章消たり

○萬國市

來々年米國シカゴに開かるべき万國市は、日本の名を列邦に紹介するに恰好の機なり、上下ともに今少し之に着目用意ありては何如ん。

○外勢

新聞紙の外信は、多くは橫濱のメール新聞より來る、他に折く々の飜譯はありと云へど、大したる見るべき外勢の記事あるとなし、願はくは、新聞紙の目先づ今一きは外國の形勢に注ぎて、而して後ち本邦一般の人心を之に惹かんとを。

○日本の開化

日本は古來外國の形勢に迫られて進化したるとを多しとす、漢字渡來より、開港維新の出來事に至る迄、大率ね皆然らざるはなし、些さか殘念なりと云へど、實際の大勢斯の如くなるを何如にせん、達者は之を利用するにある耳。而して、今の平時に於て外國の形勢を我國に利導巧用せんとせば、先づ新聞紙面に賴るの外良策なし。

(編者) 二ヶ月ほど社に在らず常務を欠たると多し、今日歸京したれば次號より不相變勤勉いたすべく候。

女報

あいこ編

●成立學舍女子部の擴張　成立學舍女子部は今般教務擴張の爲めに神田區三崎町二丁目へ移轉し、規則を改正し、一昨年來歐米に渡航し經濟及び女子教育を視察して、過般歸朝せし土子文學士專ら力を添へ、其他數名の學士を增聘して教授の任に當らしむと云ふ。

●香蘭女學校　麻布永坂町にある香蘭女學校は、從前尋常中學科以上授業料一圓五十錢の所今般一圓となし、更に英國より學位を有する女史二名を聘し九月七日より始業するよし。

●ラージ氏の未亡人着京　麻布東鳥居坂なる東洋英和學校の教師米國人ラージ氏は、昨年四月四日夜强盜の爲めに殺害せられたれば、未亡人は客冬一と先づ歸國したるが、去る十五日橫須賀港の便船にて再び渡來し一昨十七日同校へ着したり。

●婦人選擧權　英國内閣總理大臣ソーリスベリー侯は、先頃或る集會に於て次きの議員選擧法改正案中には婦人に選擧權を附與するの條を加ふべしと明言したるが爲めに、保守黨員は大に驚愕し、此程同黨員の集會を開き其の決議を以て婦人に選擧權を與ふるの一事は保守黨の承認する能はざる所なりと侯に通知したり。

●女子獨立學校　府下南豐嶋郡角筈村なる女子獨立學校は、去る明治廿一年現校長加藤さし子（新潟縣撰出衆議院議員加藤勝彌氏の母堂）等が專ら斡旋して創立したる者なるが、同校の委員は樺山子爵夫人、井上子爵夫人外四名又贊成者は鍋島侯爵夫人、大隈伯爵夫人を始めとして數百名の多きに達したるが、同校に於て教授する所の課程は、每日午前に和漢英の三學及數學等を教え午後は裁縫、刺繡養蠶其他の手工を教授す、現に本年の養蠶は不熟練なる女生徒の手際に割合しては上作にして繭一石餘を收穫し皆之を生絲乳線等に製造せしが、總て同校女生徒の製造品は重に米國に向て輸出するの途を設け该品は、大概同校の委員及び贊成者に於て引き受ることゝなし、利得は悉く校費に充るの方法なりと、又同校は創立以來日尙ほ淺くして規模大ならず且つ其位地の郊外に僻在するを以て之を知る者少なきも土地高燥靜閑にて生徒の健康に適す、現在の生徒は僅に四十餘名に過ぎざれども校舍の狹隘なるが爲め入學志願者を謝絕する有樣なれば目上增築の計畫中なる由又、同校の教職員は勿論委員贊成者に至る迄悉く皆女子にして外國人の女教師も一名ありて專ら婦女子の溫和貿業の氣風を涵養し獨立自活の道を得せしめん事を旨として教授する趣きなり。

●婦人事業の進步　貴婦人委員會の會長パーマー令孃は、コロンビヤ世界大博覽會の爲め外國に在りて大に計畫する所ありしが其効績は頗る著明なるに至れり、すなはち會長は專ら委員會の利益を進めんとを欲し歐羅巴に渡りしが其の甲斐ありて同會の性質及目的は歐羅巴人に確に認知せられたり、即ち英國の貴女達は大

に會長の計畫を賛成し自外に於て一の婦人同盟を組織し彼の博覧會の開くるに際し内外をも亦た女子の利益を謀らんとせり、而して皇女クリスチャン内親王殿下には特に熱心なる同會の賛成者とならせられき。巴里に於ても同様の會を組織せし貴婦人の之に賛同する者極て多く、カルノー大統領及び同夫人も同會の同盟者となれり、斯の如く會長の創る所として賛成者の蹶起ざるなく、加之澳地利に於て婦人の利益を計る一部局を設けられ伯林に於ては各所に各婦人委員會の勢力を得るの徴候を見はすに至り、彼の卑屈極れる土耳古婦人も大に悟る所ありてか尤も賞歎す可き絵畫の出品をなさんとする目論に至れり、されば亞米利加に於ては如何にと云ふに、墨其古の婦人は墨其古世外人委員より公正の處置を受るに至れり、女子の特所を[illegible]する東洋諸國に行はるゝ國に於て[illegible]く可き出來事と云ふ可し、但し會長不在中は新事業を起さざる可しとの規約なれども、其既に着手したる事業は既に堅固且つ迅速なる進歩をなしたり、米國各州に於て既に設けられたる婦人會最初になさんとする所ろは、先づ國立委員なる貴婦人委員の認可を得んとするに在り、或は一二の例外を除ては州費を出すと否やの差なきにしもあらずと雖も、米國各州に於ける貴婦人會の事務は實に目覺しき進歩をなしたるものと云ふ可きなりと云々。

●フムバイ女史の書状　歓喜的挽揚に渡米し同地婦人の悲しむ可き状態を視て大に我婦人社會をして照覧する所あらしめたる彼のアフム婦人フマバイ女史の書見を聞に、女史は、其本國に於て一の女子大學校を設立するの素を置かんが爲に目下其事業に従事し居れり、米國女人ドクルアレイナアレナード、フィヌー女史と云へるは、曾てフマバイ女史に伴ふて世界を行遊したる女醫師なるが、此女史の助力によりフマバイ女史は其地最新病院に行はるゝ等に取りソロシスと云へる倶樂部を組織せりとて此倶樂部の顧問は不日趣論にして此世界は亦た女子の爲めにも造られたるものなりと語ふに皆ゞ一と云へる意味を有するなり、而して此倶樂部の目的は婦人の地位を高め婦人の智識を増進すると云ふに在りて、倶樂部の集會は二週間毎に開かれ、二時間は凡て議事に用ひ其外餘時は凡て用器音樂は貴婦人達の之を賛成するもの甚だ多く、米國大統領ハリソン夫人も此事を賛助して大に同情を表したりと云ふ。

●同志社女學校女教師　先に同校におり長く熱心に教授に勤めたりしホワイト女史の歸米の後任として、女教師中一人ありと聞しに今度マイヤー女史（仙台に[illegible]れし）來られ來九月より同校にて教育に從事さるゝ由。

●學藝講話會　同校にては、九月より毎月一回同志社教師依頼して、同校女學生の爲に實際的に學藝を講談さるゝといふ。

●米國婦人傳道教會　此度當用なる傳道者諸氏[illegible]の同會は、[illegible]に於て開會式を擧られたり、[illegible]

賀三郎氏高崎女學校生徒總代村山つね子代讀明治婦人教會創立員總代の答辭ありて高崎女學校生徒諸氏の奏樂あり、終に兩條文學博士の婦人教會に付ての懇切なる演説ありて、盛大に式を終へたりといふ。

問答

あい子

●問。高等女子師範學校は私立學校出身のものでも入學を許されませうか。若し許されますなら試驗科目及び程度は何んな者ですか。○高等女子師範學校高等女學校等の教員及び幼稚園の保姆と夫々入學するに試驗の程度が違ひますか。自費にて修學を許されますか。●答。私立學校の方でも許しますしかしどんな學校の生徒でも府縣知事の推薦でなければ　入學試驗を受ける事が出來ません。其推薦を願ふ手續は地方によりて違うかも知れません。東京では府廳へ願ひ出て試驗を受け合格であれば推薦してくれます　入學試驗の程度は尋常師範學校の二年生を終つたと同等だそうです。科目は年々違ひますが昨年は和漢數學歴史地理動物などで英學はありませんでした。中にも和文と數學は未です。自費修學は許されないとの事です。

●問。女學雜誌二百五十八號に「無事の時、無話の時」と題した文をお作りなされし「愛山生」と申すお方の御本名と、御住所と、御職業を伺ひます。（高等商業學校大學生）●答。本名は山路彌吉氏、今は麴町區有樂町有樂館に居られ、「護教」の記者です。

●問。元良勇次郎氏の著された心理學は代價が何程ですか、又何れの書店にありますか。（山口縣一女子）●答。女學雜誌社でも取り次ぎます。代價は五十五錢で外に郵稅が入ります。

●田淵子樣、白川生、其他二三の質問家に申す　哲學上の理屈は誠に面倒ですからどうか專門の雜誌教叢、六合雜誌、哲學雜誌などに向て御質問あらんことを願ひます。

●問。淺利の譯、家計簿記法并に例題の各代價と郵稅を御教へて下さい。家計簿記を獨修するには右の書にて能く分りますか、その外に獨學によろしい本があらばお教へなされて下さいます（[illegible]の曾源生）●答。淺利の譯は代價が三十錢で郵稅が四錢、家計簿記法并に例題は十錢に二錢です。此本はよくわかるでせうその外家計簿記法といふ本がよろしいだろうと思ひます、これは[illegible]社におります、代價は二十錢郵稅が四錢です。

●問。女學雜誌二百號より二百六十二號迄揃買求致したいが代金は何程ですか（下總の一讀生）●答。一ヶ年割引の方にて二圓八十六錢です。

●問。貴社在京の鈴木大人は日授を編輯された作文日授の代價は何程ですか。（松任）●答。郵稅共三十二錢です。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

品名	八月廿七日	品名	八月廿七日	品名	八月廿七日
白米一等米	[illegible]	繰綿上々入	[illegible]	製茶	[illegible]
二等米	[illegible]	七入	[illegible]	同	[illegible]
三等米	[illegible]	並入	[illegible]	同	[illegible]
四等米	[illegible]	繰綿	[illegible]	同	[illegible]
五等米	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
正米中米	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
後米	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	白木綿	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	日ノ出	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	石油	[illegible]
[illegible]	[illegible]	八十日	[illegible]	チヤスク	[illegible]
[illegible]	[illegible]	八十日	[illegible]	アボート	[illegible]
[illegible]	[illegible]	九十日	[illegible]	ホトキス	[illegible]
[illegible]	[illegible]	百目	[illegible]	レシヤ	[illegible]

本校各學科生ニ欠員アリ且今般教師ヲ増シ校則科目等ヲ改正セリ入學志願ノ方ハ至急申込アレ入學試驗九月三日四日五日
但規則書入用ノ方ハ郵券二錢御封送アラバ直チニ進呈スベシ
明治二十四年八月

横濱山手百七十八番
フエリス和英女學校

看護婦生徒募集廣告

此回本社看護婦生徒募集候條志願ノ者ハ來月三十一日迄ニ本社病院(府下豐島郡下澁谷御料地内)ヘ申込可シ但シ年齢廿歳以上三十歳以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノ者ニ限ル詳細規則並ニ出願手續ハ本社病院ニ就テ承合ス可シ
廿四年八月

日本赤十字社

專門
梅毒 淋病 子宮 [illegible]

右四科ハ院長が前の大學東校梅毒院勤務中只管患者に施験したる處に速に全治受合なり若し全治せざれば藥價返却す●但[illegible]
[illegible]
東京[illegible]丁目[illegible]
[illegible]

山本醫院

日本基督教[illegible]最初の信者
村田若狹守肖像
美麗ナル石版畫ニ印刷シ[illegible]諸君ハ左ニ
一枚二十錢[illegible]
[illegible]丁目一番地 [illegible]

立教學校教育ノ旨趣

立教學校ノ名、世ニ聞ユル久シト雖モ、多年ノ積弊言フニ勝ヘザルモノアリシヲ以テ、昨秋非常ナル改革ヲ斷行シ、規則ヲ嚴酷ニシ、校務ヲ改頓シ、殆ト創新ノ觀ヲ爲スニ至レリ、爾後僅ニ一年ヲ經過シタルニ過ギズト雖モ、改革ノ實効頗ル見ルベキモノアリ、是レ校員等ノ深ク滿足スル所ナリ

目下ガーヂナル氏校長トナリ、左乙女豐秋氏主監ノ任ニ當リ、教師木村駿吉氏始メ學士三名、外國人四名、其他、數多ノ教員各々懇切ト熱心トヲ以テ、教授ニ從事セリ、學期ハ總テ五年ニシテ、其初年級ニ入ル者ハ高等小學卒業ノ學力ヲ有スルヿヲ要ス、其他、何レノ年級ト雖モ、學力ニ應シテ入級スルヿヲ得セシム、而シテ明年ニ及ビ、今ノ五年生カ卒業スルニ至ラハ、更ニ修學ノ志望ト餘力トヲ有スルモノヽ爲メニ、特ニ高等科若干級ヲ置クヿアルベシ

本校ノ或ル年級ヲ卒業スルモノハ、素ヨリ某々官立學校ノ入學試驗ニ應スルコト容易ナリト雖モ、本校ハ必シモ世ノ所謂「豫備校」ナル者ニ傚ヒ、受驗課目ヲ教授スルニ汲々トセズ、爲メニ教育ノ本旨ヲ誤ルヿヲ欲セザルナリ、本校ノ期スル所ハ卒業生ヲシテ一箇ノ眞公民トナリ、或ハ社會ニ出テヽ、獨立自營ノ事業ニ就キ、或ハ更ニ深遠高尚ナル學問ヲ研究シ得ル丈ノ智識ヲ修得セシメントスルナリ、是ヲ以テ本校ハ高等普通學科ヲ教授スト雖モ、課目ノ取捨、時間ノ配合ニ於テ、頗ル苦心スル所アリ、彼ノ學ブ所愈々繁クシテ得ル所愈々少キノ弊ハ務メテ之ヲ避ケンヿヲ欲ス

本校ニ於テハ物理、化學、動植物ノ如キハ各々專門學士ノ負擔スル所ニシテ、相當ノ器械標本ヲ具備シ、實驗ノ便缺ク所ナカラシム

現時教育ノ弊、少年子弟能ク洋語ヲ解シ、洋文ヲ作ルト雖ドモ、尋常ノ國文ニ至リテハ、日用往復文スラ尚ホ之ヲ綴ルヿ能ハザル者アリ、是レ畢竟漢學修習ノ消衰ヘタルニ由ラズンハアラズ、是以テ本校ハ當秋期ヨリ大ニ漢學授業時間ヲ増加シ、生徒ヲシテ書ヲ讀ミ、文ヲ綴リ、他日社會ニ立テ、有用ノ人物タラシメンヿヲ欲ス、庶幾クハ、世間洋學校ノ通弊ヲ免ルヽヲ得ンカ若シ夫レ道德ノ涵養、志操ノ研磨ニ至リテハ、本校ノ嘗テ自ラ任スル所、殊ニ嚴酷ニシテ清潔ナル學生ノ氣風ヲ慕フ者ハ、父兄ノ依賴ニ應ジ、本校内ニ寄宿セシメ、嚴重ニ監督ノ責ヲ盡スベシ

茲ニ本校創新ノ第二年期將ニ開始セラレントスルニ際シテ、本校教育ノ旨趣ヲ公ニスルヿ斯ノ如シ

立教學校生徒募集廣告

本校改革創新ノ第貳年期ニ際シ茲ニ學則ヲ改正ス本校ハ社會實用的人物ヲ養成セン爲高等普通學ヲ教授ス教員ハ米人四名日本人理學士木村駿吉同市岡太次郎農學士河村九淵大學古典科卒業生熊田鐵次郎諸氏外七名束修貳圓月謝一圓校費廿錢塾費三圓四十錢入學志願者ハ來ル九月五日マデニ申込ムベシ規則書ハ二錢郵券ヲ添ヘテ照會アルベシ大阪名古屋前橋ニテ地方試驗ヲ執行ス

東京々橋區新榮町七丁目三十七番地

立教學校

主監　左乙女豐秋

麻布永坂町一番地

香蘭女學校生徒募集

○授業料ハ尋常小學六拾錢高等八拾錢中學科一圓○教師ハ英人五名本邦人九名○尋常小學科ハ九月一日其他ハ仝七日始業

○規則書入用ノ仁ハ申込アレ

東洋英和女學校　來ル九月八日始業

ラージ夫人本月十二日加奈陀ヨリ無恙再來今後顧問トシテ學校ノ爲盡力ス○寄宿生ハ九月七日歸校スベシ○新入生試驗ハ九月八日午前更ニ規則書入用ノ方ハ郵券封入申越アレ

麻布鳥居坂十四番地

私立　東洋英和女學校

雜誌定價			
一冊	六錢	郵税五厘	（但府內無郵税）
十冊	五拾八錢	郵税五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

以テ、昨秋非常ナル改革ヲ斷行シ、規則ノ嚴格ニシ、校務ヲ改良シ、殆ト創新ノ觀ヲ爲スニ至レリ、爾後僅ニ一年ヲ經過シタルニ過ギズト雖圧、改革ノ實效頗ル見ルベキモノアリ、是レ校員等ノ深ク滿足スル所ナリ

目下ガーヂナル氏校長トナリ、左乙女豐秋氏主監ノ任ニ當リ、教師木村駿吉氏始メ學士三名、外國人四名、其他、數多ノ教員各々懇切ト熱心トヲ以テ、教授ニ從事セリ、學期ハ總テ五年ニシテ、其初年級ニ入ル者ハ高等小學卒業ノ學力ヲ有スルヿヲ要ス、其他、何レノ年級ト雖圧、學力ニ應シテ入級スルヿヲ得セシム、而シテ明年ニ及ビ、今ノ五年生カ卒業スルニ至ラハ、更ニ修學ノ志望ト餘力トヲ有スルモノヽ爲メニ、特ニ高等科若干級ヲ置クヿアルベシ

本校ノ或ル年級ヲ卒業スルモノハ、素ヨリ某々官立學校ノ入學試驗ニ應スルコト容易ナリト雖圧、本校ハ必ンモ世ノ所謂「豫備校」ナル者ニ倣ヒ、受驗課目ヲ教授スルニ汲々トシテ、爲メニ教育ノ本旨ヲ誤ルヿヲ欲セサルナリ、本校ノ期スル所ハ卒業生ヲシテ一個ノ眞公民トナリ、或ハ社會ニ出テヽ、獨立自營ノ事業ニ就キ、或ハ更ニ深遠高尚ナル學問ヲ研究シ得ル丈ノ智識ヲ修得セシメントスルナリ、是以テ本校ハ高等普通學科ヲ教授スト雖圧、課目ノ取捨、時間ノ配合ニ於テ、頗ル苦心スル所アリ、彼ノ學ノ所愈繁クシテ得ル所愈少キノ弊ハ務メテ之ヲ避ケンヿヲ欲ス

本校ニ於テハ物理、化學、動植物ノ如キハ各々專門學士ノ負擔スル所ニシテ、相當ノ器械標本ヲ具備シ、實驗ノ便缺ク所ナカラシム

現時教育ノ弊、少年子弟能ク洋語ヲ解シ、洋文ヲ作ルト雖圧、尊ム國文ニ至リテハ、日用往復文スラ尙ホ之ヲ綴ルヿ能ハザル者アリ、是レ畢竟漢學修習ノ消衰ヘタルニ由ラズンハアラズ、是以テ本校ハ當秋期ヨリ大ニ漢學授業時間ヲ増加シ、生徒ヲシテ書ヲ讀ミ、文ヲ綴リ、他日社會ニ立テ、有用ノ人物タラシメンヿヲ欲ス、庶幾クハ、世間洋學校ノ通弊ヲ免ルヽヲ得ンカ若シ夫レ道德ノ涵養、志操ノ研磨ニ至リテハ、本校ノ習ツテ自ラ任スル所、殊ニ嚴格ニシテ清潔ナル學生ノ氣風ヲ慕フ者ハ、父兄ノ依賴ニ應ジ、本校内ニ寄宿セシメ、嚴重ニ監督ノ責ヲ盡スベシ

玆ニ本校創新ノ第二年期將ニ開始セラレントスルニ際シテ、本校教育ノ旨趣ヲ公ニスルヿ斯ノ如シ

日本人理學士木村駿吉同市岡太次郎農學士河村九淵大學古典科卒業生熊田鎮次郎諸氏外七名東修貳圓月謝一圓校費廿錢塾費三圓四十錢入學志願者ハ來ル九月五日マテニ申込ムベシ規則書ハ二錢郵劵ヲ添ヘテ照會アルベシ大阪名古屋前橋ニテ地方試驗ヲ執行ス

東京々橋區新榮町七丁目三十七番地

立教學校

主監　左乙女豐秋

香蘭女學校生徒募集

麻布永坂町一番地

○授業料ハ尋常小學六拾錢高等八拾錢中學科一圓○教師ハ英人五名本邦人九名○尋常小學科ハ九月一日其他ハ全七日始業○規則書入用ノ仁ハ申込アレ

東洋英和女學校

來ル九月八日始業

ラージ夫人本月十二日加奈陀ヨリ無恙再來今後顧問トシテ學校ノ爲盡力ス○寄宿生ハ九月七日歸校スベシ○新入生試驗ハ九月八日午前更ニ規則書入用ノ方ハ郵劵封入申越アレ

麻布鳥居坂十四番地

私立

東洋英和女學校

立教學校生徒募集廣告

本校改革創新ノ第貳年期ニ際シ玆ニ學則ヲ改正ス本校ハ社會

雜誌	一册。	六錢	郵税。	五厘
	十册。	五拾八錢	郵税。	五錢 (但府内無郵税)
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢 (同前)

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三